

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十一主日礼拝のしおり

## 2022年8月21日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 84 編 6-8 節

いかに幸いなことでしょう

あなたによって勇気を出し 心に広い道を見ている人は、

嘆きの谷を通るときも、そこを泉とするでしょう。

雨も降り、祝福で覆ってくれるでしょう。

彼らはいよいよ力を増して進み ついに、シオンで神にまみえるでしょう。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちはいろいろなことに縛られて日々歩んでいます。いろいろな心配があります。頭を離れない悩みがあります。どうして私が、と思うような苦しみも、どうしてこんなことがと思うような不条理も経験します。私たちはそのままの姿であなたの御前に来ました。どうぞあわれんでください。あなたに何も差し出すことができない私たちです。どうぞあなたの憐れみによって私たちを心配や苦しみから解放してください。今朝も罪の赦しと新しいいのちを、自分の生活の中で信仰をもって受け取り、感謝と生きがいをもって歩む一週間としてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：ヘブライ人への手紙 12章 18節-29節

あなたがたは手で触れることができるものや、燃える火、黒雲、暗闇、暴風、ラッパの音、更に、聞いた人々がこれ以上語ってもらいたくないと願ったような言葉の声に、近づいたのではありません。彼らは、「たとえ獣でも、山に触れれば、石を投げつけて殺さなければならぬ」という命令に耐えられなかったのです。また、その様子があまりにも恐ろしいものだったので、モーセすら、「わたしはおびえ、震えている」と言ったほどです。

しかし、あなたがたが近づいたのは、シオンの山、生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たちの祝いの集まり、天に登録されている長子たちの集会、すべての人の審判者である神、完全なものとされた正しい人たちの霊、新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。

あなたがたは、語っている方を拒むことのないように気をつけなさい。もし、地上で神の御旨を告げる人を拒む者たちが、罰を逃れられなかったとするなら、天から御旨を告げる方に背を向けるわたしたちは、なおさらそうではありませんか。あのときは、その御声が地を揺り動かしましたが、今は次のように約束しておられます。「わたしはもう一度、地だけではなく天をも揺り動かそう。」この「もう一度」は、揺り動かされないものが存続するために、揺り動かされるものが、造られたものとして取り除かれることを示しています。

このように、わたしたちは揺り動かされることのない御国を受けているのですから、感謝しよう。感謝の念をもって、恐れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう。実に、わたしたちの神は、焼き尽くす火です。

**福音書朗読：ルカによる福音書 13章 10-17節**

安息日に、イエスはある会堂で教えておられた。

そこに、十八年間も病の霊に取りつかれている女がいた。腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった。イエスはその女を見て呼び寄せ、「婦人よ、病気は治った」と言って、その上に手を置かれた。女は、たちどころに腰がまっすぐになり、神を賛美した。

ところが会堂長は、イエスが安息日に病人をいやされたことに腹を立て、群衆に言った。「働くべき日は六日ある。その間に来て治してもらおうがよい。安息日はいけない。」

しかし、主は彼に答えて言われた。「偽善者たちよ、あなたたちはだれでも、安息日にも牛やろばを飼い葉桶から解いて、水を飲ませに引いて行くではないか。この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

こう言われると、反対者は皆恥じ入ったが、群衆はこぞって、イエスがなされた数々のすばらしい行いを見て喜んだ。

**讚美歌 313 番**

- 1 この世のつとめ いと せわしく 人の声のみ しげきときに  
内なる宮に 逃れ行きて われは 聞くなり 主のみ声を
- 2 昔、主イエスの 山に野べに 人をば 避けて 聞きたまいし  
いとも とうとき 天(あま)つ御声 今なお 響く 我が心に
- 3 主よ騒がしき 世のちまたに われを忘れて いそしむ間(ま)も  
ちさきみ声を 聞きわけうる 静けき心 与えたまえ **アーメン**

**説教：「神を賛美した」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今朝私たちは、神様の恵のみ言葉にあずかるためにここに集っています。そして神様に感謝をもってお答えするのです。イエス様がある安息日に会堂で教えておられました。そのときにある女性におこったこと、これが主日礼拝で起こることです。何か起こったのでしょうか。

この女性は礼拝に来ていました。イエス様がお話するのを聴いていました。病いの霊に取りつかれており、18年間も腰がまがったままで伸ばすことのできなかつた女性です。それでも、礼拝に来ていました。あとでイエス様はこの女性のことを、アブラハムの娘、と呼んでいます。信仰をもって、神様にだけ期待をしていた女性だったのです。他の人々もこの女性とともに同じ村で18年前から知っていたのでしよう。一緒に礼拝に来ることは当たり前のこととなって

いたのかもしれませんが。または、女性ですから、男性とは別のセクションに座っていたのかもしれませんが。

イエス様はその女の方を見逃しませんでした。「その女を見て、呼び寄せた」と書いてありましたね。目を注いでくださいます。イエス様は礼拝の中でお話するだけではなく、そこにいる一人一人を優しくご覧になっておられるということです。今日、どのような思いで座しているのか、これまでどのようなことがあったのか、絶望ですか、もたえ苦しみですか、高望みしないで現状を受け入れているのですか、人生ってこんなものだ、とあきらめていますか、どのような状況で、どのように感じているのか、ご存じなのです。

そして、呼び寄せてくださいます。教えておられた間に、お話を中断したのでしょうか、お話をしているイエス様の傍らまで、その方を呼び寄せました。腰のまがったままの、あまり見られたくない姿で、彼女はそれでもイエス様のお招きに答えて歩いていきました。みんなの目も彼女に注がれたことでしょうか。そして、イエス様は「婦人よ、病気は治った」と宣言してくださいました。弱さから解放された、という意味です。さらに、イエス様はこの方に手を置いてくださいました。この女性は、自分にイエス様の目が注がれ、呼び出され、これまで縛られていた弱さから解放された、と宣言され、さらにイエス様に触れていただいたのでした。

するとどうでしょうか。イエス様に触れられたこの女性は、たちどころに腰がまっすぐになりました。みんなが驚く中、彼女はひとり神様を賛美し始めました。気持ちはおわかりますね。18年間悩んできた腰が、今まっすぐになったという単純な喜びです。でもそれは、神様がしてくださったことだと信じて、神様を賛美しました。

イエス様はこんなことをほかにもたくさんなさっていたようですね。17節を見ると、群衆はみんなこぞってイエス様がなさった数々のすばらしい行いを見て喜んだ、と記されています。イエス様はこの日だけではなく、いつも、このようなすばらしい行いを生み出し続けておられたのです。

礼拝で神様のみ言葉が語られます。そして、語られている間に、耳を傾けておられるお一人一人をよくご存じでご覧になっているイエス様は、あなたに目をとめて呼び出し、そのままイエス様の御前に入るように招かれています。そして、口に出さなくもおわかりになっているイエス様は、あなたの祈りに答えて、あなたを縛るものからあなたを解放してくださいます。

イエス様はご自分で十字架にかかって、私たちのために死の恐れ、悪魔の誘惑、罪のゆえに神様を避ける性質を終わらせてくださいました。私たち皆は、自分や大切な方の健康や、安全がいつも気がかりです。恐れています。病気になったり事故にあったりするのは、確率の問題だ、偶然が支配しているのだ、と思う人もいるでしょう。私たちは悪魔の誘惑にもいつもさらされています。ふとしたことで神様から目が離れ、社会では常識でこんなことはみんながしている、小さなことだから目くじら立てるのは大人げない、自分だけが犠牲者で終わるのはいやだから

少しくらいいい思いをしてもいいだろう、などと、いろいろな誘惑の声をかけて、神様に信頼せず自分で思いを遂げようと算段して実行します。私たちから神様が見えなくても神様にはすべて知られていますが、イエス様によって赦して神の子として歩ませてくださろうとしておられる神様を認めずに、自分で何とかしようとして神様からのかかわりを避けようとしています。調子のよいときは意識しなくても、何かが起こると反射的にそのような思いにとらわれます。抵抗できないくらいに縛られているのです。神様を賛美しても、口先だけのものになり、神様とともにいても、人を妬み、自分を責め続け、もやもやした生きがいの感じられない毎日が続きがちな私たちです。

この女性は、礼拝でイエス様に触れられました。神様のみ言葉にあずかり、さらにイエス様に触れていただきました。私たちもイエス様とひとつとされる洗礼にあずかり、イエス様の流された血と裂かれたからだにあずかる聖餐によって、イエス様に触れていただき、確証が与えられます。死と悪魔と罪の力から、弱い私たちはイエス様によって解放されて、新しいのちをいただき、神様を賛美する生き方に導き入れられました。不安と焦りと恐れと虚しさから解放されて、安心と情熱と希望と生きがいに満たされました。

ここにもうひとりの人が登場します。イエス様の悪口を言った人です。この会堂で礼拝が滞りなくもたれるように、いつも細かいところまで気を配っていた会堂長とよばれる人でした。彼はイエス様がこの女性にしたことを見て、怒りに燃えて人々に言いました。今日は安息日だ。病気を治すなら週日にやってもらったらいい。安息日にはこんなことをしてはいけぬ。この女性の賛美の声をかき消すように、会堂長はすごい剣幕でイエス様を非難しました。

理解しがたい感じを受けますが、会堂長の立場からみて、イエス様はどんなわるいことをしたと映ったのでしょうか。安息日の礼拝のために、この人は神様に任された会堂長の仕事を一生懸命していました。みんなが仕事を休んで神様の言葉を聴くためにここに集まっているのに、イエス様は病気を治すという仕事をしたではないか。自分の会堂でそんなことをするなんて、断じて許せない。こんな気持ちでしょうか。

18年間の苦しみから解放された女性のことを喜ぶのではなく、賛美をかき消してまで自分の思い込んでいる安息日のすがたに合わないから、と、まるで神様になりかわっているような気持ちで、神様に祝福された正義感だと思いついて、自分から見ると秩序を乱しているイエス様を責めています。ゆったりと時間の流れる恵まれた礼拝の中で、突然のあらあらしい激しいことばそこにいた人は凍り付き、かたずをのんでイエス様のことばを待ったことでしょうか。

イエス様は旧約聖書の安息日の教えを引用なさいました。たとえば申命記5章12節以下では、安息日はあなたも息子娘も、男女のしもべも、牛、ろば、すべての家畜もみな休む日である、かつてエジプトの奴隷であったあなたがたが神様の力ある御手によって導き出されたことを安息日に思い出すのである、とされています。このような御言葉を引用してイエス様は、あな

たがたは安息日には牛やろばを週日縛っている飼葉おけの前から解放して、水飲み場に水を飲ませて休ませに行くではないか、と指摘されます。18年間のサタンに縛られていたこの方は、安息日にこそ解放されるべきではなかったのか、とおっしゃいました。神様が人々を縛っている力からあなたがたを解放してくださることをこのようにして覚えるためだからです。

会堂長や、会堂長のことばに同調してイエス様に反対していた人々は恥じ入ることになりました。そして人々は喜びました。それはこの女性が悪魔の力から解放されたからだけではありません。それはこの女性におこったすばらしいことというだけではなくて、イエス様がそのように私たち一人一人に、安息日に、死と悪魔と罪の力から解放してくださる方なのだ、と知って喜んだのでした。

このとき会堂でイエス様はご自分のお話を休んで、この女性を見て招き寄せ、悪魔の力から解放されました。しかしそれは本来すべきでないことをイエス様が思い付きでなされた、ということではありません。それは、安息日にイエス様が働いてくださることを皆がして喜ぶためでした。安息日は私たちが休む日、そして私たちに休みをお与えくださる神様が働いてくださる日なのです。今朝も私たちは、神様の恵のみ言葉にあずかるためにここに集っています。イエス様は私たちの罪を赦し、私たちに永遠のいのちをお与えくださいます。私たちは神様に感謝をもってお答えするのです。

会堂長が考えていたように、私たちは神様を怒らせないように、神様の命令を懸命に守って礼拝をする、というわけではありません。むしろそのような恐怖心で縛られているところからイエス様はご自分の死と復活を通して解放してくださいました。会堂長が大声で怒りをイエス様にぶつけたことで動揺した人々もいて、同じようにイエス様に反対していたようです。世には大きな声で訴える言葉にうろたえて、自分で考えることをやめて同調するような圧力を感じる時もあります。イエス様は聖書のみ言葉を語ります。そして、神様は私たちがそのような様々な人間の声や考えに縛られて、自分で考えることのできなくなっている姿をご存じでいらっしゃいます。そこから解放して、神様の子どもとして、イエス様がなされた数々のすばらしいみわざを見て喜ぶものとされます。そして、自ら神様の恵みに応答して賛美するものとされます。私たちは感謝をもって、自分を鍛えてよりよく神様と人々に役立つものとなり、人々とともにイエス様にある幸いをつくっていく生きがいに歩むことができるようにされるのです。

私たちは今朝の礼拝で、イエス様がお働きくださって、長い間私たちを縛っているさまざまな束縛からイエス様によって解放されました。イエス様はご自分が苦しみを担い、私たちのために死んでよみがえってくださって、死の恐れ、悪魔の誘惑、罪の力から私たちを解放してくださいました。この一週間はイエス様に遣わされている生活の現場で、それが家庭でしょうか、それが職場でしょうか、それが近隣社会でしょうか、イエス様を喜びほめたたえ、イエス様にいただいた新しい命に生かされてまいりましょう。

イエスはその女を見て呼び寄せ、「婦人よ、病気は治った」と言って、その上に手を置かれた。女は、たちどころに腰がまっすぐになり、神を賛美した。 ルカによる福音書 13章 12-13節  
人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### **讚美歌 339 番 献金 献金感謝の祈り**

- 1 君なるイエスよ、けがれし我を 洗いきよめて 恵みをたまえ  
わが日わが時 わがもの皆は 今より とわに 君のものなり
- 2 わが手は君の み業をならい われの歩みは み跡をふみて  
いそしみ進み 主の御力に 常に頼りて 強からしめよ
- 3 われの舌をば 救いの主(ぬし)の 恵みを歌う 器となして  
わが唇に よき音ずれを 溢るるばかり 満たしめたまえ
- 4 黄金 しろかね 知恵も 力も 献げまつれば みな 取り用い  
我的心を 宝座(みくら)となして み旨のままに 治めたまえや      **アーメン**

### **主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### **頌栄：讚美歌 541 番**

父、御子、御霊のおお御神に、ときわに絶えせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

### **祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

### **後奏**